



サービス・ツーリズム産業労働組合連合会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-5-6 造船会館4F
TEL 03-3230-0465 FAX 03-3239-1553
E-mail: stu@stu.ituc-rengo.jp
発行人 高橋征夫

200組合、5万人が結集 12年余の交流と努力が実る 「サービス連合」を結成！

1987年から継続した交流と大同結集への努力が21世紀初頭に実を結び、7月25日遂にわが国のサービス・ツーリズム産業労働者を代表する待望の新産別組織「サービス・ツーリズム産業労働組合連合会（サービス連合）」が誕生しました。

同日夜には「サービス連合結成祝賀会」が盛大に開催され、労働界を始め業界・行政・経営者の方々などに、祝福を受けました。また、翌26日には「レジャー・サービス連合解散大会」と「ホテル労協解散総会」が開催され、2つの組織はサービス連合にその運動を引き継ぎ発展的に解消しました。

全国200組合、約5万人が結集したサービス連合は、全組合員の期待を受けて力強く新しい運動のスタートを切ります。

結成大会に350人が出席

記念すべき「サービス連合結成大会」は7月25日11時から東京・ホテルラングウッドにおいて開催され、大会代議員・傍聴者・結成準備会役員など350人が出席しました。

大会は緊張した雰囲気の中、まず「新産別結成準備会」を代表してレジャー・サービス連合澤田委員長があいさつ。続いて松倉厚子（全日空ホテルズ労連）、矢澤雅弘（ジェイティビー労組）の両代議員を議長団に選出し、議事に入りました。

冒頭に来賓あいさつに立たれた連合の鷲尾会長は、「産別組織の統合はいくつか経験したが、新たな産別組織を立ち上げる“組織再編”は連合として初めてであり、今後の大同結集のモデルとなる快挙である。関係者の決断に敬意を表したい」とサービス連合結成を評価するとともに、「今後の雇用拡大につながる産業として、未組織、未加盟組合の結集をはかる組織拡大や、産業民主主義の確立のために産業政策の取り組み強化を期待する」と、激励の言葉を述べられました。

続いて、12年余に及ぶ交流の歴史や1年半にわたった新産別結成準備会の活動についてホテル労協の小林会長が経過報告を行い、議案の審議に入りました。

新産別の結成に向けて、まず第1号議案では「サービス連合規約と規定類」を審議し原案を賛成多数で承認。その瞬間、めでたくサービス連合が誕生し、以降の大会運営は承認された規約や規定類にもとづいて進行することが確認されました。



地連結成大会は8月下旬から

第2号議案ではサービス連合が結成直後から取り組む「2001～2002年度運動方針」「組織・財政方針」などについて、第3号議案では「2001年度予算」を審議し、いずれも原案どおりに圧倒的多数の賛成を得て承認されました。

最後に、新生サービス連合の運動を率いる本部役員を選挙を行い、笠原会長以下40名の本部役員を満場一致で選出。笠原会長の「違いを認めあった運動を共有しつつ、21世紀にふさわしい運動に取り組もう」との力強い決意表明で歴史的な結成大会の幕を閉じました。

なお、本部に続き全国8地連の結成大会は、8月29日から9月11日まで、順次開催されます。

まず運動の定着を、そして大胆な改革へ 2001~2002年度運動方針

結成大会では、昨年すでに確認済みの「基本理念」「基本目標」「10万人組織へのプロセス」を正式に承認するとともに、サービス連合が結成直後からとりくむ「2001~2002年度運動方針」と、今後4~5年間程度の中期的な組織運営のルールを提起した「組織・財政方針」を確認しました。

運動方針では、「サービス連合結成の意義は、念願の組織統一を果たしそれぞれの力を結集して新しい産別運動の強化をはかることにあるが、さらに私たちは産別運動の大胆な改革への出発点に立つという認識が不可欠である」という基本認識にもとづき、重点課題としてまず「新しい産別組織の機能整備と運動の定着」を最大の目標とし、組織内各レベルでの活発な交流

と積極的な討論の展開に取り組み、また一方では従来型運動からの脱却をめざして「歴史的変革期のなかでの産別運動の改革と創造」に、積極的にチャレンジすることを確認しました。

“10万人組織”めざし組織拡大に全力

また、具体的な運動課題としては「10万人組織」をめざす組織拡大「組織強化」「労働対策」「産業政策」「政策・制度と社会政策」「男女平等社会の実現」など12の運動分野について、当面の取り組み課題と運動の方向を確認しました。この運動方針にもとづいたサービス連合の運動は、各単組の定期大会と各地連結成大会を経て、本格的に始動します。

笠原会長など本部役員を選出

結成大会では、最後に2001~2002年度の本部役員を選出を行い、初代会長には笠原豊氏が就任しました。副会長以下の本部役員は、各部会と各地連の代表者などで構成し、本部役員体制

は総勢40人、うち専従者13人を配置することになりました。また、今後開催される各地連結成大会に立候補する4人の地連専従予定者について、承認手続きを行いました。

選出された役員氏名は下表のとおりですが、サービス連合の組織と運動の前進のために、初代役員には強力なリーダーシップと、大いになる活躍が期待されます。



サービス連合本部役員	
会 長	笠原 豊 (専従: ジェイティビー)
副 会 長	秋山 邦男 (ホテル・レジャー部会会長: 帝国ホテル)
同 同	鈴木 武郷 (第一ホテルチェーン連合: 全第一ホテル)
同 同	宮 壽夫 (全日空ホテルズ労連: エーヌエーホテル)
同 同	澤 林 侃司 (都ホテルズ連合: 全都ホテル)
同 同	小宮 坂 英明 (リ-ガ労連: ロイヤルホテル)
同 同	宮浦 野 修一 (専従観光・航空貨物部会会長: 日本旅行)
同 同	村瀬 孔 一 (ジェイティビー)
同 同	佐藤 博 隆 (近畿日本ツーリスト)
同 同	田 憲 治 (東急観光)
同 同	高橋 征 夫 (日本旅行)
事務局 長	高橋 征 夫 (専従: 近畿日本ツーリスト)
副事務局 長	林 田 一 郎 (ホテル・レジャー部会事務局長: 都ホテルズ連合: 都ホテル東京)
同 同	木 哲 也 (観光・航空貨物部会事務局長: 専従: 近畿日本ツーリスト)
組織局 長	大 井 文 人 (専従)
政策局 長	戸 松 智 (ジェイティビー)
男女平等局長	片 岡 千鶴子 (専従: ジェイティビー)
中央執行委員	川 筋 一 (藤田観光)
同 同	中 村 讓 (ヤマハリゾート)
同 同	池 田 智 幸 (天成園)
同 同	武 松 英 雄 (中の坊)
同 同	松 本 達 也 (専従: 政策局次長: 東急観光)
同 同	中 村 雅 信 (専従: 東武トラベル)
同 同	野 口 正 敏 (北海道地連: 日本旅行北海道)
同 同	小 玉 正 正 (東北地連: サルラル大湯)
同 同	吉 田 博 司 (関東地連: 帝国ホテル)
同 同	篠 原 茂 雄 (中部地連: 名古屋観光ホテル)
同 同	憲 一 郎 (関西地連: 都ホテルズ連合: 全都ホテル)
同 同	福 田 國 宏 (中四国地連: リ-ガ労連: リ-ガロイヤルホテル広島)
同 同	岡 之 治 (九州地連: 日本旅行)
同 同	地 克 則 (沖縄地連: 都ホテルズ連合: 沖縄観光開発)
特別中央執行委員	幸 内 義 治 (専従: 労働情報センター: ジェイティビー)
同 同	早 嶋 泰 司 (専従: 労働情報センター: 近畿日本ツーリスト)
同 同	高 橋 均 (専従: 連合本部派遣)
同 同	傳 中 雄 二 (専従: 連合東京派遣: 東急観光)
同 同	西 康 夫 (専従: フォーラムジャパン派遣: 日本旅行)
会 計 監 査	藤 井 真 悟 (アキタニューグランドホテル)
同 同	森 口 政 之 (都ホテルズ連合: 志摩観光ホテル)
同 同	大 沢 明 彦 (東急観光)
同 同	川 村 尚 美 (東武トラベル)
地連専従予定者	
北海道地連事務局 長	佐 藤 公 一 (専従)
関東地連事務局 長	山 川 公 男 (日本旅行)
中部地連事務局 長	河 野 誠 (名鉄観光サービス)
関西地連事務局 長	数 村 滋 (日本旅行)

ホテル・レジジャー部会

サービス連合結成大会が成功裡に終了したのに続いて、同日14時から「ホテル・レジジャー部会結成総会」と「観光・航空貨物部会結成総会」が、同時に開催されました。

結成総会では、両部会の結成が承認されるとともに、各部会が取り組む「2001～2002年度運動方針」が確認され、部会役員を選出が行われました。

両部会は、文字どおり加盟組合との接点となり、本部との連携のもとで各産業・業種ごとの「賃金および労働条件の改善」と「産業基準の確立」を基本任務とし、「産業政策の立案」や固有の課題解決の機能を発揮していくことになります。

選出された各部会役員（四役まで）は下表のとおりです。

ホテル・レジジャー部会役員（四役まで）

部会長	秋山 邦男	(ホテル・レジジャー部会部会長：帝国ホテル)
副部会長	川筋 一司	(藤田観光)
同	松宮 郷	(全日空ホテルズ労連：エーエヌエーホテル)
同	澤 寿夫	(都ホテルズ連合：全都ホテル)
同	小林 侃司	(リーガ労連：ロイヤルホテル)
事務局長	林田 一郎	(都ホテルズ連合：都ホテル東京)
副事務局長	伊勢 典生	(全日空ホテルズ労連：エーエヌエーホテル)
同	山内 勇治	(帝国ホテル)

観光・航空貨物部会役員（三役まで）

部会長	宮坂 英明	(専従：日本旅行)
副部会長	中野 雅信	(専従：東武トラベル)
同	浦野 修	(ジェイティピー)
同	村瀬 孔一	(近畿日本ツーリスト)
同	池永 一雄	(阪急交通社)
同	佐藤 博隆	(東急観光)
同	江原 敏信	(近鉄エクスプレス)
同	村田 憲治	(日本旅行)
事務局長	大木 哲也	(専従：近畿日本ツーリスト)

観光・航空貨物部会

両部会結成総会を開催



「杉乃井ホテル労組」に支援決議

結成大会では、経営側が民事再生法の適用申請に踏み切った状況のもとで、組織をあげて企業再建に取り組んでいる「杉乃井ホテル労働組合」に対して支援決議を行いました。

杉乃井ホテルは、5月3日経営不振を理由に民事再生法適用を申請し、大分地裁は6月11日「民事再生手続きを開始する」との決定を下し、現在受け皿企業との折衝や主要債権者との協

議が続いています。

杉乃井ホテル労組は1974年2月の結成以来、一貫して企業の存続・発展と労働者の生活の維持向上の運動を続けて来ましたが、特に今回は、企業の存続と雇用の確保のために労使一体となってホテル再建キャンペーンなどの努力を続けています。

サービス連合、同労組の困難なたたかいを構成組織全体のものとして受け止め、全面的に支援することを決議したものです。

“シンボルマーク” 入選は濱崎さん

サービス連合の“シンボルマーク”は、10数点の応募作品のなかから濱崎眞自さん（リーガ労連・リーガロイヤルホテル広島労組）が入選し（1面に掲載）、結成大会で表彰が行われました。

また、シンボルマークが染め抜かれたサービス連合組合旗は「結成祝賀会」で初めて披露されました。



表彰を受ける濱崎さん（右）

「箱根高原ホテル」「沖縄都ホテル」の仲間が加盟

サービス連合結成と同時に「箱根高原ホテル従業員組合（中村昭二委員長）」と「沖縄観光開発労働組合（沖縄都ホテル・幸地克則委員長）」が新しく加盟し仲間に加わりました。（沖縄観光開発労組は「都ホテルズ連合」に加盟）

また、「新産別結成準備会」メンバーに参加してきた「京王プラザホテル労働組合」（サービス・流通連合に加盟）は、サービス連合にはオブザーバー組合として参加します。

「同一産業労組の大同結集」はサービス連合の結成理念そのものですが、結成後も「産別未加盟組合の加入促進」には本部・部会・地連が一体となって取り組んでいきます。

サービス連合 結成記念祝賀会

「サービス連合結成大会」が無事終了した7月25日夜、ホテルラングウッドにおいて「サービス・ツーリズム産業労働組合連合会結成記念祝賀会」が、盛大に開催されました。



サービス連合の結成を祝福し その前途に期待を込めて

“祝賀会場”は、お祝いと激励に駆け付けた600人の出席者で一杯に

祝賀会には、連合の仲間など数多くの労働組合と、行政、業界団体、関係団体、加盟単組の経営者、役員OB・功労者に結成大会参加者が加わり、出席者は約600人に達しました。

祝賀会では、各方面の方々から心あたたまる祝福と激励を頂きました。皆様のご厚意を大切に受け止め、サービス連合は着実な運動の前進をめざします。



連合 草野副会長 日本旅行業協会 松橋会長 民主党 中野副代表
ご来賓を代表して3人の方からご祝辞を頂きました



新役員を代表して笠原会長があいさつ
後ろは、秋山・宮坂両部会長(左から)



「ヨイショ！」の掛け声とともに鏡開き



主権者を代表し、澤田レジャー・サービス連合委員長のあいさつで開宴



「おめでとう」の声が飛び交い和やかに歓談



司会進行役は片岡男女平等局長、これが初仕事



スポットライトを浴びながら、組合旗が入場

シンボルマークを染め抜いた萌黄色の「サービス連合旗」を初めて披露



小林副会長のあいさつで、祝宴はめでたくお開きに

